

会誌 Journal of Signal Processing

の J-STAGE への移行のお知らせ

Journal of Signal Processing

総編集長 谷萩 隆嗣

信号処理学会誌 Journal of Signal Processing につきましては、1997年1月の創刊号 (Vol.1, No.1) から現在まで1号も欠かすことなく、会誌の発行を続けることが出来ました。これもひとえに関係各位のご支援・ご協力の賜物であり、ここにあらためて深く感謝申し上げます。

昨今の多くの学会論文誌を見ますと、電子ジャーナル化の大きな波が押し寄せてきているように思われます。本会でも会誌の電子ジャーナル化についていろいろと検討し、何人かの先生方から非常に有益なご意見をいただきました。まことにありがとうございました。これらの多くのご意見を参考にして、2013年1月号からは、従来の形の会誌の発行を取りやめ、研究論文等を独立行政法人・科学技術振興機構の J-STAGE に掲載することとしました。

.....

信号処理学会誌改革の理念と内容

若手研究者を中心とした「世界への新しい情報発信基地」の構築――回路・システム・コミュニケーション・イメージング・信号処理技術を融合した新しい時代の技術の発展を目指して――

.....

(1) これまでは信号処理学会会員および学生会員の方々に会誌を毎号配布してきたが、2013年1月号からは会誌の配布をやめ、研究論文等を Web 上に掲載する。広い意味での信号処理に関連する研究論文であれば会員でなくても誰でも投稿出来る。さらに、掲載された研究論文は会員だけでなく誰でも見られるようにする。

(2) 研究論文は、セキュリティ面での信頼性および掲載費用等を考慮して、独立行政法人・科学技術振興機構の J-STAGE に掲載する。

(3) 当面は従来どおり 1月号から 11月号まで隔月で 6回発行するが、事情に応じて発行回数を増やし、査読から掲載までの期間の短縮に努める。掲載する研究論文は英文論文を基本とするが、当分の間は和文論文も掲載する。また、状況に応じて Survey Paper や解説記事、学会記事なども掲載する。

(4) 研究論文については、従来どおり「論文 (PAPER)」, 「研究ノート (RESEARCH NOTE)」, 「技術ノート (TECHNICAL NOTE)」に分けて掲載する。「研究ノート」と

「技術ノート」については、原則として6ページ以内とするが事情に応じてこれを超える場合も認める。

(5) 世界に向けて良質の情報を発信するためには「研究内容の質」だけでなく「英文内容の質」が非常に重要となる。「研究内容の質」を確保するために、研究論文については、従来どおり2名の査読者による「厳格な査読」を行うと同時に「迅速な査読」を心がける。

(6) 掲載が決定した英文論文については、「英文内容の質」を確保するために、原則として英文校閲を義務化し、ネイティブによる「英文校閲」を必須とする。英文校閲については、著者の要望があれば、従来どおりミューリサーチ (myures@myu-inc.jp) のネイティブスタッフに事務局から依頼する。ただし、英文校閲代は著者が負担するものとする。また、「著者が自分で専門業者に英文校閲を依頼した場合」、「著者がネイティブと同等とみなせる場合」、「著者が英文に堪能で原文のまま掲載可能な英文であると論文誌編集長が判断した場合」には「英文校閲済み」として扱う。これらの場合には、著者が論文誌編集長にその旨を申し出て、論文誌編集長の下承を得ることとする。

(7) 英文校閲済みの研究論文(英文)と掲載決定済みの研究論文(和文)に対して、事務局でスタイルチェックを行う。これらのチェックを行った後、専門業者に依頼してノンブルやページを付けたPDFファイルを作成し、それをJ-STAGEのサイトに研究論文として掲載する。

(8) 会員の年会費は4,000円とする。なお、学生は指導教員との共著の形で研究発表を行うのが一般的であることを考慮して、学生会員の制度は廃止する。学生であれば、誰でも会費を支払うことなく会員と同等の資格を有するものとする。なお、学生であることを確認する必要が生じた場合には、当該学生は何か証明となるものを事務局に提出することとする。会員には別途示す特典を付与する。

(9) J-STAGEに掲載した研究論文の中から、信号処理学会論文賞選考委員会が毎年論文賞論文を選考し、論文賞を授与する。論文賞論文の選考については従来の選考規程を一部修正して適用する。ただし、研究論文の掲載時点で、論文賞候補論文の主著者と共著者には学生以外の会員が含まれていなければならない。しかし、研究論文の全著者が掲載時に学生であった場合は、会員が含まれているとして扱うものとする。

(10) 上記の改革をスムーズに行い、混乱を生じないようにするために、当面は現在の事務局をそのまま継続させることとする。従って、事務局とのメールは office@risp.jp, 電話およびFAXは03-5809-0504を利用する。

(11) J-STAGEに掲載された研究論文等については、誰でも自由にダウンロード出来るので別刷は作成しない。研究論文の主著者と共著者全員が会員の場合には、掲載料を以下のように設定する。ただし、研究論文の掲載時に学生である者については、会員として扱うこととする。

研究論文等のページ数をP、掲載料をEとしたとき

$$E = (0.5 \times P + 2) \text{ 万円}$$

とする。ただし、状況に応じて掲載料を変更することがある。

(12) 研究論文の掲載時点で主著者と共著者に非会員が含まれている場合には、掲載料を前記の金額に比べて 10,000 円高く設定する。ただし、学生は会員と同等に扱うこととする。また、主著者および共著者がすべて外国人で外国に在住している場合は、この規定に関係なく、国情や著者の事情に応じて掲載料を減額することがある。さらに、主著者が外国在住の外国人で、共著者に日本人あるいは日本在住の外国人が含まれている場合にも、事情に応じて掲載料を減額することがある。それらの場合の掲載料については、事務局で対応する。

.....

新たな編集体制

(a) 現在の編集体制を一新し新たな編集体制を組織する。新たな編集委員会は「編集主幹 (1名)」、「論文誌編集長 (1名)」、「副編集長」、「編集委員」で構成する。副編集長については、当初はいろいろな専門分野から数名程度を選定する。また、編集委員については各分野からそれぞれ 10 名以内程度を選定する。さらに「学会ホームページの編集」および「学会記事などの J-STAGE への掲載」を行うために「Web 担当副編集長 (1名)」と「Web 担当編集委員 (数名)」を選定する。「Web 担当副編集長」と「Web 担当編集委員」は原則として論文査読にはかかわらないこととする。

(b) 事務局で受け付けた研究論文は、事務局から「編集主幹」と「論文誌編集長」に回すこととする。論文誌編集長は、必要に応じて編集主幹と相談して、研究論文の内容と関係の深い副編集長に査読のための書類一式を送付し、査読の依頼をする。副編集長は関連分野の査読者 2 名を選定し、速やかに査読者に査読を依頼するものとする。編集主幹と論文誌編集長は、研究論文の査読が速やかに進んでいることを常にチェックし、必要に応じて査読結果の報告を副編集長に催促するが、これらの連絡はすべてメールでやり取りする。

(c) 副編集長は査読者の査読結果に基づいて研究論文の採否を決定し、結果を編集主幹、論文誌編集長および事務局に報告する。また、副編集長は著者に査読結果を速やかに伝えることとする。事務局では掲載予定の研究論文に対する採録決定以後の手続き（著者との連絡、英文校閲の依頼、スタイルチェックなど）を迅速に行う。

.....

編集体制付則

編集主幹の仕事内容 (投稿論文以外のすべての記事の企画と執筆依頼の担当、および各種記事の Web 上への掲載に関する総責任者)

(a) 学会関連の記事や一般記事、トピックス、専門分野に関連した Survey Paper 等を随時企画し、執筆者に依頼する。なお、必要があれば、これらに関して論文誌

編集長や副編集長などと随時相談することとする。

- (b) Web担当の副編集長あるいは編集委員に依頼して、出来上がった記事や Survey Paper等をホームページあるいはJ-STAGEに掲載する。特に、Survey PaperはJ-STAGEに掲載することとする。
- (c) ホームページの記事や研究論文等がJ-STAGEにきちんと掲載されていることを確認する。必要に応じて論文誌編集長や副編集長と相談し、ホームページの掲載記事等の修正を行う。

論文誌編集長の仕事内容（投稿論文の査読および採否に関する責任者）

- (a) 事務局から送られてきた投稿論文および査読に必要な書類（「査読報告書」および「著者へのコメント」（英文コメント用あるいは和文コメント用のどちらか））を関連分野の副編集長に送付する。
- (b) 査読が滞らないようにするために、事務局との連絡を密にする。例えば、事務局から査読用研究論文一式を受領したら、直ちに受領したことを事務局に伝えることとする。また、どの副編集長に査読を依頼したかについても事務局に伝えるものとする。
- (c) 副編集長と協力し、研究論文の査読が円滑に進み、査読に遅れがないように注意する。
- (d) 論文誌編集長名で書類を作成する必要がある場合（例えば、「論文採録通知」を論文誌編集長名で出す場合など）には、状況に応じて必要書類を作成する。

副編集長の仕事内容（投稿論文の査読および採否を担当）

- (a) 論文誌編集長から送られてきた投稿論文を見て、2名の査読者を選定する。
- (b) 投稿論文および査読に必要な書類（「査読報告書」と「著者へのコメント」（英文コメント用あるいは和文コメント用のどちらか））を選定した査読者あてに送付する。なお、可能な限り、編集委員の中から査読者を選定するように努めるが、査読が特定の編集委員に集中しないように配慮する。
- (c) 査読予定者が研究論文を受け取ったこと、および査読が可能なことを確認する。査読が不可能な場合には、速やかに別の査読者を選定して査読を依頼することとする。
- (d) 査読に際しては、「的確な査読」と「迅速な査読」を心がける。査読期間は原則として5週間とする。
- (e) 査読結果の報告が締切日から大幅に遅れることがないように、査読者との連絡を密にする。査読結果の報告が遅れたら、予定通りに報告するようお願いをする。
- (f) 2名の査読者の査読結果に基づいて論文の採否を決定し、編集主幹、論文誌編集長および事務局に連絡する。また、著者に査読結果を伝えることとする。なお、

担当者間で不公平が生じることがないようにするために、論文の査読や採否に関する種々の注意事項については、論文誌編集長が副編集長、編集委員等に別途指示する。

- (g) Web 担当副編集長は「学会ホームページ編集」、「J-STAGE への学会記事などの掲載担当」の責任者とする。Web 担当編集委員と協力して学会ホームページを編集し、最新の学会情報などをホームページに掲載し、J-STAGE の研究論文をリンクさせる。さらに、J-STAGE にも学会記事などが掲載出来るようにする。

編集委員の仕事内容 (主として投稿論文の査読を担当)

- (a) 副編集長から送られてきた投稿論文および査読に必要な書類（「査読報告書」と「著者へのコメント」(英文コメント用あるいは和文コメント用のどちらか)）を受け取ったら、査読が出来るかどうか速やかに副編集長に伝えることとする。
- (b) 査読を円滑に進めるために、締切日までに査読を終了するようにする。
- (c) 査読が終了したら、速やかに査読結果を副編集長に伝える。

.....

会員に対する特典

信号処理学会では会員の年会費は 4,000 円とし、会員に対しては以下のような特典を付与する。なお、学生は指導教員と共著の形で研究発表を行うのが一般的であることを考慮して、学生に対しては無条件で会員と同等の扱いをする。ただし、学生であることを確認する必要がある場合には、当該学生は何か証明となるものを事務局に提出することとする。

- (a) 主著者と共著者がすべて会員の場合には、非会員が含まれている場合に比べて、研究論文の掲載料が 10,000 円値引きされる。ただし、学生は会員と同等に扱うこととする。
- (b) 信号処理学会主催の国際会議 NCSP で研究発表を行う場合、会員の参加費は非会員の参加費に比べて値引きされる (NCSP'12 の場合には 10,000 円の値引き)。また、信号処理学会主催の新たな催しに対しても、会員には同様の便宜を図る。
- (c) 毎年研究論文の中から論文賞選考委員会で選考して論文賞を授与するが、論文賞候補論文の主著者および共著者には、研究論文の掲載時点で、学生以外に会員が含まれていなければならない。ただし、主著者および共著者が学生だけの場合には、会員が含まれているとみなすこととする。
- (d) 会員は「信号処理学会論文賞規程」に基づいて、論文賞の対象となる候補論文を推薦することが出来る。

会員の皆様方へのお願い

信号処理学会会員の皆様方には、これまで多大なご支援・ご協力を賜り心からお礼を申し上げます。

2013年1月からは、これまでのような会誌の発行はなくなりますが、独立行政法人・科学技術振興機構のJ-STAGE上でも、これまでと同様に充実した研究発表の場を設けてまいりますので、これからも引き続いて会員としてご支援くださいますようお願い申し上げます。

新年度からは学生会員の制度はなくなり会員だけとなりますが、会員に対しては前述のような特典がありますので、多くの会員の皆様方がこれらの特典を生かすように活発に活動してくださることを期待しています。

信号処理学会の事務局はこれまでと変わりませんので、論文投稿や事務局への連絡等もこれまでとまったく変更ありません。

事務局：〒113-0022 東京都文京区千駄木5-19-10

TEL & FAX: 03-5809-0504

E-mail: office@risp.jp

URL: <http://www.risp.jp/>

退会希望者へのお願い

これまでとは会誌の発行形態が変わりますので、これを機に信号処理学会からの退会を希望される方々もおられることと思います。

退会を希望される場合は、「退会届」と書いて「2013年1月から信号処理学会を退会したい」旨を事務局までメールでお知らせください。「退会届」の書式は自由ですが、退会を希望される方は必ず「退会届」を提出してくださいますようお願いいたします。

なお、現在「学生会員」として登録されている学生の方々は何も届け出なくて結構です。すでに述べたように、学生の間は会費を支払うことなく会員とほぼ同等な資格を有していますが、学生の身分ではなくなった場合には、速やかに事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

新規会員勧誘のお願い

信号処理学会で研究発表を行おうと考えておられる方々および大学等で実際に学生の研究指導を行っておられる先生方にとっては、前述のような大きな特典があります。また、年会費（4000円）も安く設定されていますので、会員の皆様方におかれましては、「周囲の方々が新しい会員となってくさるよう」勧誘していただけますと非常にありがたいと思います。新規加入希望者は事務局あてにメールで「入会を希望する」旨の連絡をしてください。折り返し、事務局から「入会申込書」をお送りしますので、必要事項を記入して、事務局あてにメールあるいは郵便で「入会申込書」をお送りください。